



和'S YAMATO (わずやまと) 春号 2016



鹿俣山より南西(尼ヶ禿・浅間)を望む
(群馬県沼田市提供)

〔第一次上田合戦〕

◎ 強敵・徳川を下した真田は小領主から大名へ

〔歴史の転換点となった名胡桃城の攻防〕

◎ 真田と北条の対立が秀吉の天下平定につながる

◎ 真田丸人物相関図

◎ お客様紹介 下田プリンスホテル 様

◎ 名瀑探訪 船尾滝



名瀑探訪

船尾滝

FUNAOTAKI

(群馬県吉岡町)

船尾滝

水沢観音から車で10分足らず、駐車場より徒歩約20分。この間、驚くような美しい景色がぐんぐんと胸に迫ってきます。船尾滝は相馬山麓の渓流を集めて、海拔840mから落差約72m落下する名瀑です。九十九谷の断崖に流れ落ちる日本画のようなこの白い滝に、春には桜、秋には紅葉と息のむような美しさが移ろいます。伊香保を訪れるなら、足をのばさないのはもったいない風光明媚な場所です。滝を見上げるにも、周囲の山を見下ろすにも最高なあずま屋の周りは、愛らしい山野草の姿も見られ、水遊びもでき、自然を満喫できます。

船尾滝は昭和63年に吉岡町より名勝の指定を受けました。昭和初期まで溝祭の獅子舞が船尾滝で雨乞い祈願をしており、諸人達の入山が許されない神聖な場所だったそうです。船尾という名前は、その神聖さゆえ、入山が許されなかったことから、不入(ふにゅう)がいつしか船尾になったということです。



群馬に名滝と名酒あり

船尾滝は日本酒(地酒)の銘柄にもなっており、柴崎酒造の銘酒[船尾龍]はすっきりとしたさわやかな飲みごこちです。



五徳山 水沢観音 (水沢寺)

和'S YAMATO (わずやまと)

春号(第28号) 2016

『和'S YAMATO』の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。ヤマトが発信するメッセージです。

株式会社ヤマト情報誌

和'S YAMATO 2016 初春号 / 2016年3月発行

発行:株式会社ヤマト(広報室) 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北

営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀

附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、

朝倉工場、サポートセンター、教育センター、コンタクトセンター

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/





強敵・徳川を下した真田は小領主から大名へ



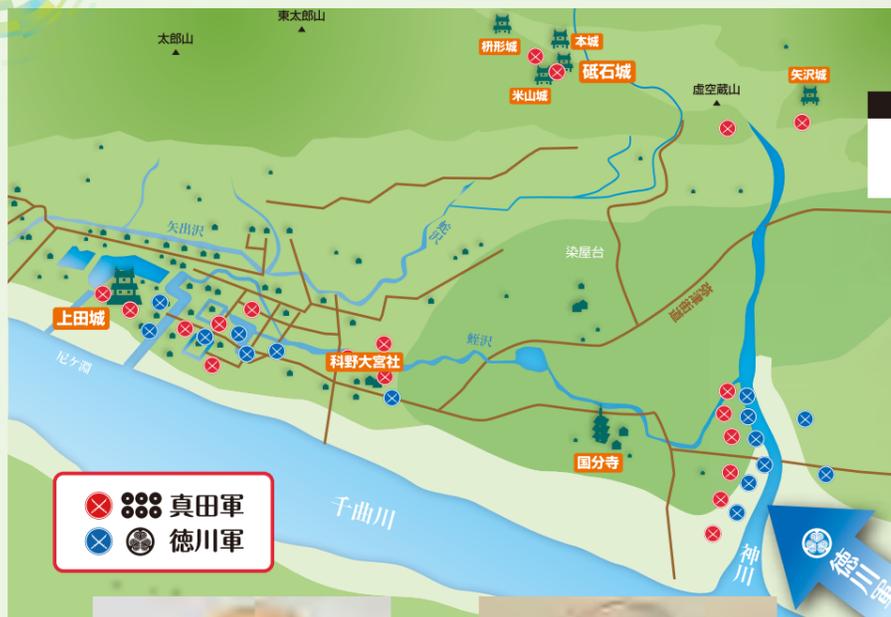
西橋と桜

NHK大河ドラマ 『真田丸』

戦国時代の荒波をかくぐる真田丸
2016年NHK大河ドラマ「真田丸」は、乱世の戦国時代を生き延びていくために、強大な武将と渡り合い、奇策で翻弄しながら家督を守り通した真田氏の物語です。大阪の陣では、戦国時代最強の砦といわれる「真田丸」を作り上げ、徳川家康を窮地に追い込む劇的な戦を実践しました。「真田丸」とは、真田一族の命運を託した小舟にもたとえることができます。

天正十年(一五八二)、武田氏が滅亡すると、真田昌幸は一年のうちに盟主を織田→上杉→北条→徳川と四回も変え、生き残りを模索する。
同年二月、信長の攻撃により、武田勝頼が天目山にて自刃。武田家が滅びると、主君を失った真田昌幸は苦悩の末、織田信長に臣従する。同年6月、織田信長が明智光秀により本能寺の変でたおれると、北条氏直に従属。更にわずか2ヶ月後に徳川家康に帰順する。家康は北条氏と対立していたが、政治的な駆け引きで北条氏と和睦。家康は昌幸に対して、北条氏に沼田領を返還しよう命令する。当時、家康は秀吉と敵対しており、北条氏との同盟を強化したい意思があった。しかし、昌幸にとって沼田領は自力で奪還したのであり、大名同士の駆け引きで領土を手放すわけにはいかない。昌幸は、家康との対決を決心する。

天正十三年(一五八五)の第一次上田合戦は、地方の小領主・真田氏が強大な徳川氏に勝利するという離れ業をやったのけ



第一次上田合戦



る。真田の陣営は二千人、対する家康は七千人と三倍以上の兵力で真田氏に襲いかかるが、結果は徳川軍が千三百人以上の戦死者を出す惨敗となった。真田軍の戦死者はわずか四十人だったという。
両軍の衝突は神川を挟んで始まるが、真田軍は敵が近づけば反撃するもの、じりじりと後退していく。徳川軍は攻撃



真田幸村画像 (真田宝物館蔵)



真田昌幸画像 (真田地域自治センター蔵)

に勢いがつき、二ノ丸まで追いこんだと思ったところ、深い堀に行く手を阻まれる。堀に沿って大手門の方向へ進軍する徳川勢は、本丸の入口となっている大手門で真田軍の大反撃を受けることとなる。昌幸は、敵を十分に引き付けて、一気に叩く作戦を練っていた。大手門の扉の上からは敵の頭上に多数の太木を落とす、扉の穴からは銃弾や矢を浴びせ、更に五百人の兵が一斉に蜂起し、徳川軍に襲いかかる。この予想を覆す攻撃に徳川兵は恐慌をきたし、我先にと逃げだした。しかし、城下の道筋に仕組まれた千鳥掛け



(曲がりくねった柵を並べて道を塞ぐ仕掛け)に人馬が足をとられ折り重なって倒れ、甚大な損害を被る。やっこの思いで城から脱出した兵には、砥石城を守っていた昌幸の長男信幸率いる三百人の兵が奇襲を仕掛ける。意表をつかれた徳川軍は神川に次々と飛び込むものの、濁流に飲みこまれ溺死する。真田軍は神川の水位を調節し、徳川軍が攻め込みやすいように水かさ下げ、逃げる時には増水させていたのだった。
その後、昌幸は家康に対抗するために豊臣秀吉に帰属するが、徳川の重臣・石川数正が秀吉側に寝返るといふ事件が起こり、情勢は急展開する。重臣の裏切りで、徳川の機密が豊臣に筒抜けになってしまう。家康は真田攻めどころではなく、諸將を急いで手元へ呼び戻し、第一上田合戦は意外な幕切れとなった。その後、秀吉と家康は和睦したため、徳川と真田も和睦。昌幸は豊臣政権下で家康の指揮下に入る大名となった。真田昌幸は小領主ながら徳川軍の主力を打ち破り、真田の武名は天下に轟いたのだった。
昌幸に大敗した家康はその知略を恐れ、婚姻政策で味方に取り込むことに方向転換し、養女家康の重臣・本多忠勝の長女小松姫を昌幸の長男信之に嫁がせる政略結婚が実行に移されるのだった。



真田幸村を祀る真田神社

真田神社 上田城跡公園内にあり、上田城櫓櫓をくぐると正面に見える神社です。真田・仙石・松平の歴代上田藩主を祀っており、主神は真田昌幸と長男の信之父子です。江戸時代に上田を領していた仙石、松平両家の歴代藩主が祭神として奉られています。開祖の名をとって「真田神社」とされました。第二次上田合戦では38,000もの徳川の軍勢を3,500の兵力で撃退し、大阪冬・夏の陣で大活躍した真田氏の知略や勝運にあやかうという人も多く訪れる人気パワースポットです。



真田井戸



真田杉



真田神社の地図



六文銭

真田神社の門柱には、真田家の家紋「六文銭」が施されています。「六文銭」の家紋は、死んだ人間があつた世へ行く途中に渡るという三途の川の渡り賃が「六文」であつたことに由来するとされ、死をもいとわない不惜身命の決意で戦に臨む真田家の姿勢を表すものであつたと言われていいます。実際に、大坂夏の陣で死を覚悟して徳川の軍に挑み、一矢報いて華々しく散った真田家の魂は六文銭そのものであり、その魂は現在も故郷上田の真田神社に深く刻まれているのです。



上田城

上田城は上田盆地のほぼ中央、千曲川の尼ヶ淵河岸段丘上に築かれた平城である。天正11年(1583年)信濃を巡り、越後の上杉景勝との抗争中の徳川家康が、前線基地として真田昌幸に築上せさせたとされている。



上田城

S
A
N
A
D
A



上田城の変遷

上田城は、慶長5年(1600)の第二次上田合戦の際に破却され、元和8年(1622)に仙石忠政が復興を計画。寛永3年(1626)に工事に着手しますが、寛永5年に忠政が病死。さらに重臣の抗争などの事情で上田城の復興は未完成に終わっています。現存する上田城の建物は、その際に築かれたものです。未完成とはいえ、わずか2年足らずの間に、埋められていた堀を元通りに掘り返し、本丸は七棟の隅櫓と土塀、東西虎口に二棟の櫓門など、体裁を整えました。仙石氏時代の上田城は、寛永18年(1641)、貞亨3年(1686)、元禄15年(1702)の3回にわたり改修工事が行われた記録が残っています。仙石氏は忠政以降、政俊、政明と3代84年間にわたって上田を治め、塩田平の溜池の築造・改修などによる農業振興と上田綿(紬)などの産業育成に力を注ぎました。



西櫓と桜



真田三代略年表

- 天文10年(1544) 武田・諏訪・村上の連合軍、海野平で海野氏を破る
- 天文14年(1548) 真田幸隆、このころ武田信玄に出仕
- 天文19年(1553) 信玄、砥石城を攻めて敗退(砥石崩れ)
- 天文20年(1554) 幸隆、独力で砥石城を奪取。真田の本領を回復
- 天文22年(1556) 川中島で甲越両軍の戦い(第1回)
- 永禄4年(1561) 川中島で信玄・謙信、激戦
- 永禄7年(1564) 幸隆ほかの武田勢、上州の岩下城・岩櫃城を攻略
- 永禄10年(1567) 信玄、配下の武將に起請文を書かせる
- 天正元年(1573) 信玄、三河侵攻の帰途に信州駒場で死去
- 天正8年(1580) 昌幸、上州沼田城攻略
- 天正10年(1582) 武田家滅亡。昌幸は織田信長に従属
- 天正11年(1583) 信長の死後は北条氏に、次いで、徳川家康に属する
- 天正12年(1584) 昌幸、上田城を築き始める
- 天正13年(1585) 上田城完成。昌幸、徳川から離反、上杉景勝を頼る
- 天正13年(1585) 昌幸、家康の北条氏への沼田城明け渡し命令を拒否、家康と手を切る。
- 昌幸父子、大挙して攻める徳川軍を撃退(第一次上田合戦)
- 天正14年(1588) 昌幸、秀吉に臣従
- 天正15年(1589) 昌幸、秀吉の仲介で家康の配下となる
- 天正17年(1591) 秀吉裁決で沼田城は北条氏に
- 天正18年(1590) 真田に残された名胡桃城が北条の猪俣邦憲に奪われる
- 秀吉、北条を討伐。沼田城は真田に復す
- 真田父子も参戦
- 慶長3年(1598) 秀吉が没する
- 慶長5年(1600) 昌幸、幸村は石田三成方に属し、犬伏の陣より上田城に戻る
- 昌幸は徳川方に属する。昌幸らは徳川秀忠の大軍を上田城に迎え討ち、釘つけにする。(第二次上田合戦)
- 関ヶ原の戦いで西軍が敗れ、昌幸、幸村は高野山に配流となる
- 慶長16年(1611) 九度山で昌幸病没、65歳
- 慶長19年(1614) 幸村、豊臣方の拳銃に65歳
- 真田丸を築いて、徳川方を破る(大坂冬の陣)
- 慶長20年(1615) 幸村、大坂夏の陣で家康の本陣に迫る奮戦の後、戦死
- 大阪城は落ち豊臣氏滅亡
- 元和2年(1616) 信之、このころから上田の統治に専念
- 元和8年(1622) 信之、上田から松代に移封
- 万治元年(1658) 信之、93歳で没す



真田石
長径3m。昌幸が太郎山より掘り出したものといわれる。緑色凝灰岩を使用。真田信之が松代へ転封となった際に運びだそうとしたが微動だにできなかったという。

病死した小松姫を上田へ運んだと伝えられる籠
家康は婚姻政策で昌幸をとりこむため養女(家康重臣・本多忠勝の長女の小松姫を信之に嫁がせた。上田城・市立博物館蔵)



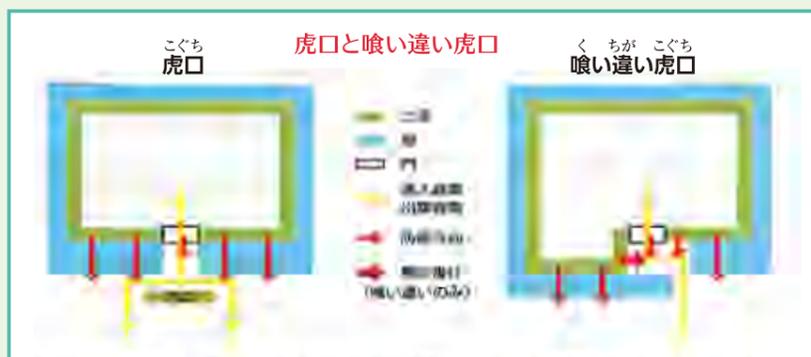
(昌幸所用) 皺革包昇梯子文仏二枚胴具足(真田宝物館蔵)



復元された虎口



名胡桃城址の看板



虎口

虎口とは防御施設としての出入り口のこと、小口や戸口に虎の字をあてて勇猛さや危険な印象を与えています。



復元・整備された名胡桃城

群馬県利根郡みなかみ町下津にあり、群馬県指定史跡となっています。大正12年(1923)に地元の有志で結成された保存会によって、史跡が良好に保存されました。



名胡桃城址

天正17年(1589)6月、豊臣秀吉は真田昌幸と北条氏直による沼田領をめぐる紛争の仲裁に入った。徳川家康が領有する信州伊那郡が昌幸に譲られ、沼田領は北条氏の領土とした。しかし、名胡桃城だけは真田氏が支配することとなった。北条氏にすれば、名胡桃城も支配下に置かなければ、沼田を領有したとはいえ、名胡桃城を奪おうと企てた。北条氏は名胡桃城主の鈴木主水をだまして城外に出し、城の乗っ取りに成功。しかし、秀吉はこの行為が惣無事令違反と大いに怒り、同年12月に北条氏の拠点・小田原城攻めの陣触れを出した。

名胡桃城址は、永徳四年(一四九二)、沼田城主の沼田景久の時代に築土されたと推定され、景久の三男の景冬が、沼田城の支城として築城したとされている。城の形状は、細尾根を幾筋もの堀を切り、馬出郭・三郭・ささ郭・物見郭が直線に並んだ東西約六八・四m、南北百七四・六mの連郭式の山城である。利根川と赤谷川の合流地点に位置し、標高約四三〇m谷下からの比高は約五〇m。東・西・北の三方に屏風を立てたような絶壁を持つ天然の要害で、戦国動乱期、上野と信越地方を結ぶ交通の要衝ともなっていた。

天正六年(一五七八)、上杉謙信の死後、北条氏政は北条氏邦を派遣し、沼田城を制圧した。

翌年の天正七年に、武田勝頼は真田昌幸に命じて沼田家の内紛に乗じる形で、小河城、名胡桃城を落とす。名胡桃城は昌幸が沼田城を落とすために改修し、沼田領を巡り北条氏との争いが続いていた。

天正十七年(一五八九)、豊臣秀吉が、諸大名に上洛の要請を出すと、北条氏は

「沼田城を引き渡してくれたら上洛する」と訴える。これに対して昌幸は「名胡桃城には先祖の墓があるのでどうしても譲れない」と主張した。(実際には先祖の墓があったという事実はなかった)

秀吉は沼田城を含む上州三分の二を北条氏が領有し、吾妻郡と名胡桃城は真田氏の領土と裁定した。これを不服としていた北条氏は、半年後、北条氏の沼田城主・猪俣邦憲が突如として名胡桃城を攻略し、真田氏名胡桃城主鈴木主水は自刃する。秀吉は惣無事令に違反したと激怒し、天正十八年(一五九〇)に北条氏の拠点である小田原城を総攻撃し、北条氏は滅亡した。

秀吉は小田原攻めの功を賞し、沼田城を真田氏に与え、昌幸は北毛を制圧して沼田領が安堵されると、名胡桃城は廃城となった。この小城をめぐる攻防、「名胡桃事件」が契機となって、秀吉が事実上天下統一を成し遂げた。名胡桃城をめぐる攻防は戦国時代に終止符を打つ動因となり、歴史を大きく動かすこととなった。

SANADA
真田と北条の対立が秀吉の天下平定につながる

真田丸人物相関図

真田家と親密な人々

堀田作兵衛 (藤本隆宏)

梅の兄、信繁を慕う地侍。大阪の陣には槍を取って駆けつける。

梅 (黒木 華)

信繁の初恋の相手。信繁の最初の子を産む。

高梨内記 (中原丈雄)

きりの父。昌幸の側近で真田家の番頭的な存在。

きり (長澤まさみ)

信繁の妻。生涯にわたり信繁を支える。

出浦昌相 (寺島進)

佐助など隠密集団を操る。

佐助 (藤井隆)

忍者。真田一族を陰から支える。

真田家

真田昌幸 (草刈正雄)

信繁の父。軍略に優れた武将で真田家を牽引。

とり (草笛光子)

信繁の祖母。信繁に薫陶を与える猛々しい祖母。

薫 (高畑淳子)

信繁の母。公家出身のため高貴さが漂う。

真田信繁 (幸村) (堺雅人)

大阪の陣で家康の首に迫る戦いで勇名を轟かせる。

松 (木村佳乃)

信繁が深く慕った姉。

真田信幸 (大泉洋)

優秀で真面目な信繁の兄。信州松代藩初代藩主。

小松姫 (吉田羊)

本多忠勝の娘(家康の養女)で信幸の正室。終生信幸を支える。

真田家の主とその関係者

茶々(淀) (竹内結子)

秀吉最愛の側室。待望の嫡男・秀頼を産み大きな影響力をもつ。

北政所 (鈴木京香)

秀吉が心から信頼する正室。秀吉本人でさえ頭が上がらず、家臣団の深い尊敬を集める。

豊臣秀吉 (小日向文世)

真田家の力を高く買い、大名に取り立てる。北条家を滅ぼし、天下統一を成し遂げた。

豊臣秀頼 (中川大志)

父・秀吉の亡き後、淀の溺愛を受け成長する。大阪の陣を信繁と共に戦う。

豊臣秀次 (新納慎也)

秀吉の甥。関白となり、秀吉の後継者として励むが、秀頼が誕生し失脚し高野山で切腹させられる。娘が信繁の側室となる。

片桐且元 (小林 隆)

石田三成や大谷吉継と並ぶ、中枢を支える官僚。秀吉の死後、対徳川の交渉役となるが、家康の圧力に苦しむ。

石田三成 (山本耕史)

豊臣家に絶対的な忠誠を誓う参謀。秀吉への取次役。関ヶ原の戦いで信繁らを西軍へ誘う。

大谷吉継 (片岡愛之助)

勇知兼ね備えた豊臣家屈指の名将。信繁は多くのことを学ぶ。愛娘を信繁の正室に嫁がせる。

千利休 (桂 文枝)

多くの大名を弟子に持つ大茶人。秀吉とはやがて確執が生まれ、切腹を命じられる。

武田勝頼 (平 岳大)

真田が仕えた武田家最後の当主。偉大な父・信玄を乗り越えようとするが、叶わなかった悲劇の武将。

滝川一益 (段田安則)

武田滅亡後、真田の主人となる織田家の武将。信州を支配するが、本能寺の変で窮地におちいる。

真田家のライバルたち

北条氏政 (高嶋政伸)

関東の権力争いで真田と激戦を繰り広げた戦国大名。真田家との領地争いが、秀吉による小田原合戦の引き金となり、北条氏滅亡へとつながる。

室賀正武 (西村雅彦)

真田家をライバル視する信濃の豪族仲間。家康の意を受け、昌幸の暗殺を画策する。

徳川家康 (内野聖陽)

信繁の前に終生立ちはだかり続ける、最大最強の宿敵。最終決戦となった大阪の陣で、信繁に窮地に追い込まれる。

阿茶局 (斉藤由貴)

家康の最愛の側室。母代りとなって二代将軍・秀忠を育てる。大阪の陣では、命がけで和議の交渉を行う。

本多正信 (近藤正臣)

家康を天下取りに導いた名参謀。家康を支え、その優れた策を授け続けた。

本多忠勝 (藤岡 弘)

徳川随一の猛将。娘の小松姫が信幸の正室となり、敵だった真田家と縁を結ぶ。

上杉景勝 (遠藤憲一)

若き日の信繁が人質となる戦国大名。関が原ではともに戦うが、大阪の陣では信繁の大坂城を囲む。信繁とは不思議な因縁がある。



さんくるわ 三郭復元想像図



MAP



本郭跡 長さ51m、幅約30mの洋梨型。



本郭の名胡桃城址の碑



昭和2年に建立された名胡桃城址の碑

この碑文を書いたのは文豪の徳富蘇峰で、石材は地元の富士山でとれた安山岩で、村中の人々が総出で運び出し城址の碑を建立しました。(左の写真はみなかみ町歴史ガイドの会・会長の高橋俊信さん)

下田の観光スポット

下田は伊豆半島の最南端に位置し、温泉地としても有名です。下田の観光スポットをご紹介します。

下田海中水族館

イルカと間近に接することができ、アシカのショーも楽しめます。

道の駅

「開国下田みなと」

近海の魚介類やご当地バーガーなど、観光グルメやお土産が豊富に揃っています。

寝姿山展望台

伊豆三景の一つにもなっている下田の絶景スポット。

ペリーロード

ペリーが来航したことにちなんで名付けられ、昔ながらの街並みの風情を味わうことができます。

下田公園

梅雨の季節はあじさいが園内に彩を添えます。



寝姿山から見た下田港



下田公園のアジサイ

SHIMODA



MAP



㈱ヤマトは、下田プリンスホテル様の空調熱源改修工事を行い、2015年12月に工事を完了しました。下田プリンスホテル様の特色をご紹介します。

お客様紹介

下田プリンスホテル様

リニューアル内容



メインダイニングルームかもめ

開放感に身をゆだねる心地よいラグジュアリー空間。柱には開放感を演出するクリアミラー貼り。壁には波をイメージした意匠壁を採用。天井には南国の風を感じさせるシーリングファンを設置。床・テーブル・椅子には、自然と調和する木目が基調。



ツインルーム Bタイプ(3階24室)

【テーマ】Beach Romance
海をイメージしたブルーの色調、絨毯には波をイメージした模様を採用。

インルームBタイプとメインダイニングルームかもめをリニューアルし、昨年5階の客室ツインルームAタイプとツインルームCタイプをリニューアルしました。これにより3つのインテリナーコードネットワークで、訪れるたびに異なる印象のお部屋に宿泊できる楽しさを提供しております。

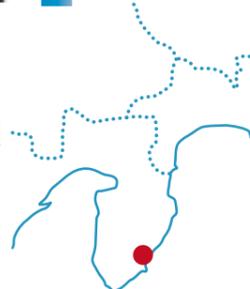
目の前に広がる海は、環境省が水質良好で快適な海水浴場として選定した「日本の快水浴場百選」に選ばれており、夏期シーズンはファミリー層に人気があります。伊豆 下田「白浜」の魅力ある美しい自然を感じていただける空間となっておりますので、ぜひ一度新しくなった下田プリンスホテルへお越しください。



コメント

下田プリンスホテル 支配人 白井利人 様

下田プリンスホテルは、伊豆の中でひととき美しい遠浅の海岸を持つ白砂青松の地、白浜海岸に位置します。デザインコンセプトの「南国の風と海をテーマに2014年に3階4階の客室ツ



〒415-8525 静岡県下田市白浜1547-1
TEL:0558-22-7575



展望温泉浴場



パノラマ



ツインルーム Bタイプ(4階26室)

【テーマ】Sunshine Vacation
太陽の輝きをイメージしたオレンジを基調とした色調、絨毯には日差しを浴びて太陽に輝く海をイメージした模様を採用。



ツインルーム Aタイプ(5階20室)

【テーマ】Luxury Cruise
目の前に広がる海に浮かぶクルーズ船をイメージした上質感ある落ち着いた雰囲気ラグジュアリー空間を演出しました。